

**製品名: COL14A1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09169**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:20000-1:40000
分子量	

**抗原情報**

遺伝子名	COL14A1
別名	COL14A1; UND; Collagen alpha-1(XIV) chain; Undulin
遺伝子 ID	7373.0
SwissProt ID	Q05707
免疫原	抗血清は、ヒト N 末端コラーゲン XIV $\alpha$ 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

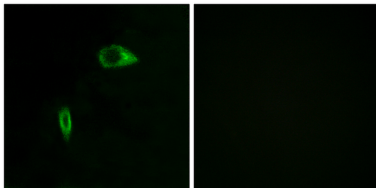
**背景**

この遺伝子は、FACIT (fibril-associated collagens with interrupted triple helices) コラーゲンファミリーに属する XIV 型コラーゲ

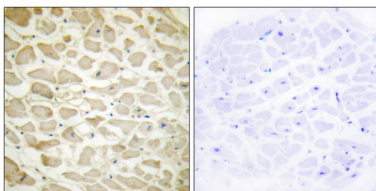
ンの $\alpha$ 鎖をコードしています。XIV型コラーゲンは線維表面と相互作用し、線維形成の調節に関与しています。[RefSeq提供、2013年1月]、機能: コラーゲン束を統合することで接着の役割を果たします。おそらくCOL1を介して間質性コラーゲン線維の表面に結合していると考えられます。COL2ドメインは、その後、線維から突き出た剛性のアームとして機能し、大きなN末端球状ドメインを細胞外空間に突出させ、そこで他のマトリックス分子または細胞表面受容体と相互作用する可能性があります。、PTM: トリペプチド繰り返し単位 (G-X-Y) の3番目の位置にあるリジンは、常にヒドロキシル化され、炭水化物と結合します。、PTM: 分子間および分子内ジスルフィド結合に関与する多数のシステイン残基を含む場合があります。、PTM: トリペプチド繰り返し単位 (G-X-Y) の3番目の位置にあるプロリンは、一部またはすべての鎖でヒドロキシル化されています。、類似性: 線維関連コラーゲン (FACIT) ファミリーに属します。、類似性: 1つのTSP N末端 (TSPN) ドメインを含みます。、類似性: 2つのVWFAドメインを含みます。、類似性: 8つのフィブロネクチンIII型ドメイン。サブユニット: ホモトリマー。

## 研究分野

## 画像データ



コラーゲン XIV $\alpha$ 1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



コラーゲン XIV $\alpha$ 1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。